

人は何かの役に立つために 生まれてくるのじゃないのです

祖父江文宏

祖父江先生は、大谷派の寺の出身の方で、児童養護施設で、長く園長先生として子どもたちの現実を情報発信され続けた方です。

養護施設には、親などからの虐待や周りからのいじめ、その他様々な事情で、心に傷を負った子どもたちが多く生活しています。その子たちをかわいそうな子どもたちというようなまなざしではなく、子どもたちと生活をともにしながら、子どもに寄り添い、その子どもの生き生きとした姿を様々なエピソードとともに伝えてくださいました。決して仏教の難しい言葉で表現されるのではなく、日常の言葉で語ってくださいます。このメッセージもその一つです。

私たちは、人の役に立つか立たないか、人よりよくできるかできないかなどというような価値観のものさしで、周りを、そして、自分自身を評価して生きています。その上で、人を傷つけ、時には、自分さえも傷つけて生きる存在です。一方、仏様の視点はそうではなくて、すべての人は、そのまま輝く存在であり、役に立つとか立たないとかという以前に、存在そのものに意味があるのだと見極め関わっていくあり方があるとお示しされているのです。